

香港・国際スカウトユースフォーラム2026(ISYF2026)派遣報告書

日本ボーイスカウト広島県連盟
広島県連盟尾道第1団 細木匠

本報告書は、2026年6月25日から30日にかけて香港で開催された「International Scout Youth Forum 2026(テーマ:Scouting it Out: Driving Change through Volunteering)」への派遣を通じ、事前に設定した目的・目標・課題1～3がどの程度達成されたかを検証するものである。

資料概要

1. ISYF2026の概要
 - a. フォーラム概要
 - b. 開催の背景
 - c. 事業の目的
 - d. 進行の概要
 - e. プログラム内容
2. 目的の達成について
3. 自身の活動に置き換えて

1. ISYF2026の概要

a. フォーラム概要

行事名: 香港連盟インターナショナル・スカウト・ユースフォーラム2026
テーマ: Scouting it Out: Driving Change through Volunteering
期 間: 2026年6月26日(金) ~ 28日(日)
場 所: 香港スカウトセンター、香港中文大学
参加対象: ローバースカウトおよび同年代の指導者
参加費用: 150香港ドル(宿泊費、食費、記念品等を含む)
現地までの交通費等は自己負担
日程概要: 以下の表

日程	主な内容
6/25(Day 0)	海外参加者が香港到着・BPIにチェックイン

6/26(Day 1)	スカウトギャラリー見学、受付、開会式、アイスブレイク、グループディスカッション、チームビルディング、ウェルカムディナー
6/27(Day 2)	各国・地域のスカウトによる活動紹介、ボランティアについてのディスカッション①②、気候変動博物館見学、International Night
6/28(Day 3)	ディスカッション③、成果発表の準備・発表、閉会式、振り返り、Farewell Dinner
6/29	海外参加者が香港を出発

主催は香港スカウト連盟(Scout Association of Hong Kong)で、「Scouting it Out: Driving Change through Volunteering(ボランティア活動を通じて変化を起こす)」をテーマに開催された。日本、香港、マカオ、マレーシア、モルディブ、フィリピン、スリランカの7つのNSO(国・地域連盟)から計99名(香港65名、海外34名)が参加し、国や地域を越えた12の混成グループに分かれて活動を行った。

プログラムでは、外部専門家による3つのインプットセッションと、それを踏まえたグループディスカッションを中心に実施された。また、各NSOが自国・地域におけるボランティア活動や制度について紹介する「NSOシェアリング」や、参加者同士が互いの文化を知り交流を深める文化交流企画なども行われた。

b.開催の背景

2026年が国連によって「持続可能な開発のための国際ボランティア年(International Year of Volunteers for Sustainable Development)」に定められたことを背景に、ボランティア活動が社会の変化や持続可能な発展にどのように貢献できるのかを考える機会として、本フォーラムが開催された。

近年、社会が抱える課題や人々の生活様式が多様化する中で、ボランティア活動にも、より柔軟で多くの人が参加しやすい仕組みや、若者の成長・教育につながる活動のあり方が求められている。本フォーラムでは、こうしたボランティア活動の可能性について、異なる国や地域のスカウトがそれぞれの経験や取り組みを持ち寄り、国際的な視点から考えることが重視された。

そのため、「ボランティアを通じた革新的な教育」「柔軟で包括的なボランティアモデル」「ボランティア活動のインパクト測定」という3つのテーマを中心に、専門家からのインプットと参加者同士のグループディスカッションが行われた。また、各NSOのボランティア制度や実践事例を共有することで、国や地域

による違いや共通する課題を学び、今後のスカウト活動や地域社会でのボランティア活動について考える場として企画された。

c. 事業の目的

1. ボランティア活動の新たな可能性を考える

各国・地域のスカウトが集まり、それぞれの経験や取り組みを共有しながら、これからの社会に求められるボランティア活動のあり方について考える。

2. 国際交流を通じて相互理解を深める

異なる文化や社会的背景を持つ参加者との共同活動や意見交換を通じて、多様な価値観や考え方への理解を深める。

3. フォーラムで得た学びを今後の活動につなげる

フォーラムで得た知識や各国・地域の事例、新たな視点を、自国・地域における今後のスカウト活動やボランティア活動に生かす。

d. 進行の概要

フォーラムの実施内容

本フォーラムは、講義や情報提供だけでなく、参加者同士の交流、各国・地域の事例共有、グループ討議、現地での体験活動などを組み合わせた**参加型のプログラム**として実施された。主な内容は、以下の4つに整理できる。

(1)参加者同士の関係形成

開会式やオリエンテーション、アイスブレイク、チーム活動、香港童軍中心・スカウトギャラリーの見学などを通じて、異なる国・地域から集まった参加者同士の交流を深めた。また、開催地である香港の文化やスカウト運動について理解する機会にもなった。

(2)各国・地域の事例共有

各国・地域のスカウト連盟が、それぞれのボランティア活動や青年参加、地域貢献などの取組を紹介した。各地域の違いや共通する課題を知ることで、自国・地域の活動を見直し、新たな取組を考える機会となった。

(3)3つのテーマに関する討議

「柔軟かつ包摂的なボランティア参加モデル」「ボランティア活動を通じた革新的な教育」「ボランティア活動のインパクト測定」の3つをテーマに、情報提供とグループ討議が行われた。参加者は自身の経験や各国・地域の状況を踏まえて意見を交換し、今後のスカウト活動やボランティア活動への応用について考えた。

(4)国際交流・体験的学習

International Nightや香港での探索・視察活動、現地のスカウト関係者との交流などを通じて、参加者は互いの文化や活動環境への理解を深めた。単なる親睦にとどまらず、異なる文化や価値観に触れながら、国際的な視点でボランティアやスカウティングについて考える機会となった。

(5)成果の取りまとめ及び評価

フォーラムで得た意見や学びを成果として整理し、参加者による発表を行った。最後に閉会式と事業評

価を実施し、フォーラム全体の成果を振り返るとともに、今後の活動につながる学びを確認した。

e.プログラム内容

本フォーラムは、2026年6月26日から28日までの3日間にわたり実施された。各日の主な活動は以下のとおりである。

(1)6月26日

初日は、海外参加者を対象とした香港童軍中心及びスカウトギャラリーの見学後、香港中文大学へ移動した。その後、開会式、オリエンテーション、アイスブレイク、チーム活動及び歓迎夕食会が行われ、参加者同士の交流を図りながらフォーラムが開始された。

(2)6月27日

2日目は、各国・地域のNSOによる活動紹介に続き、「ボランティア活動を通じた革新的な教育」及び「柔軟かつ包摂的なボランティア参加モデル」をテーマとしたセッションが実施された。また、気候変動博物館の見学やInternational Nightが行われ、参加者同士の文化交流も図られた。

(3)6月28日

最終日は、「ボランティア活動のインパクト測定」をテーマとしたセッションに続き、フォーラムでの議論を踏まえた成果の取りまとめ及び発表が行われた。その後、閉会式、事業評価及び送別夕食会をもって3日間のプログラムを終了した。

日程表

日程	主な内容
Day 0(6/25)	海外参加者の香港到着、BP Internationalにチェックイン
Day 1(6/26)	香港童軍中心にて受付・スカウトギャラリー見学 → 香港中文大学へ移動、開会式、アイスブレイク、歓迎夕食会
Day 2(6/27)	NSOシェアリング、Session 1・2(講演＋グループ討議) → 気候変動博物館見学、International Night(文化交流の夜)
Day 3(6/28)	Session 3(講演＋グループ討議) → 閉会式(各グループの討議成果発表・修了証授与)、歓送夕食会

インプットセッション一覧

セッション	実施日	テーマ	講師・所属
Session 1	6/27 午後	Flexible & Inclusive Volunteering Models(柔軟で包摂的なボランティアモデル)	Gabrielle Kirstein氏(Feeding Hong Kong 創設者・CEO)
Session 2	6/27 午前	Innovating Education and Youth Leadership through Volunteering(ボランティアを通じた教育・ユースリーダーシップの革新)	David Begbie氏(Crossroads Foundation 国際代表)

Session 3	6/28 午前	Measuring Volunteer Impact(ボランティア活動の影響測定)	Benny Kwong氏(GX Foundation 広報・コミュニティ部長)
-----------	---------	---	---

2. 目的の達成について

(1) ボランティア活動の新たな可能性を考える

David James Begbie氏の講演の中で、9歳の子どものが自ら変化を起こそうと行動した事例が紹介されたことが特に印象に残った。この事例から、社会や周囲に変化を起こすために年齢や立場は必ずしも重要ではなく、**一人ひとりが身近なところから行動を起こすことが大切である**と感じた。

これまで、社会に大きな変化を生み出すためには、ある程度の経験や知識、規模の大きな活動が必要であるというイメージを持っていた。しかし、今回の講演を通して、小さな行動であっても、それを実際に始めることが変化につながる第一歩になることを学んだ。今後は、自分自身も「**できることから行動する**」という意識を持って、スカウト活動やボランティア活動に取り組んでいきたい。

(2) 国際交流を通じて相互理解を深める

今回のグループは、参加者の宗教的・文化的背景が特に多様であったことから、活動中には宗教やそれぞれの価値観について話し合う機会が多くあった。その中で、世界には様々な宗教や考え方がある一方、**異なる宗教や文化に対する理解が十分に進んでいないことも、参加者の間で共通する問題意識として挙げられた。**

また、国際交流に参加する前は、言語の違いがコミュニケーションの大きな壁になることも想定していたが、実際にはそれほど強く感じなかった。一度で自分の考えが伝わらない場合でも、表現を変えたり、何度も話し合ったりすることで、お互いの考えを理解することができた。さらに、それぞれの国・地域の言葉を教え合うこと自体が交流のきっかけとなり、参加者同士の距離を縮めることにもつながった。

この経験から、**異なる言語や文化そのものが交流を妨げるのではなく、相手を理解しようとする姿勢と、伝わるまで対話を続けることが重要である**と学んだ。

(3) フォーラムで得た学びを今後の活動につなげる

各国・地域の事例や参加者との意見交換を通じて得た学びの中で、今後日本でも取り入れていきたいと感じたものの一つが、**SEN(Special Educational Needs)のある子どもたちに対する教育・活動機会の充実**である。

今回のフォーラムでは、柔軟で包摂的なボランティア活動のあり方について考える機会があり、誰もがそれぞれの状況に応じて活動や学びに参加できる環境を整えることの重要性を感じた。今後は、今回得た考え方をそのまま取り入れるのではなく、日本や自分が活動する地域の状況に合わせながら、SENのある子どもたちも参加しやすいスカウト活動や教育のあり方について考えていきたい。

3. 自身の活動に置き換えて

今回のフォーラムでの経験を自身の活動に置き換えて考えた際、特に「**国際交流への姿勢**」と「**奉仕活動への意識**」の二点について、今後の活動を見直していく必要があると感じた。

一つ目は、国際交流に対する姿勢である。19NSJでは、海外の参加者と交流することに難しさを感じるスカウトもいることが分かった。もちろん、交流する上で英語力を身につけることは重要である。しかし、今回のフォーラムで実際に海外の参加者と交流した経験から、語学力以上に、伝わらなくても自分から話しかけ、相手を理解しようとする姿勢が重要であると感じた。一度で伝わらなくても、言葉や表現を変えながら何度もコミュニケーションを取ることで、相手と理解し合うことはできる。今後は、自分自身が積極的に交流するだけでなく、スカウトたちが失敗を恐れず、自らコミュニケーションを取ろうと思えるような意識や環境を、普段の活動の中からどのようにつくっていくかを考えていきたい。

二つ目は、奉仕活動に対する意識である。現在の活動を振り返ると、自分たちが楽しむことを中心とした活動が多く、奉仕や地域・他者への貢献について考える機会は必ずしも多くないと感じている。しかし、奉仕には様々な形があり、大人数でなければ実施できないものばかりではない。自身の所属する隊は人数が少ないが、「人数が少ないからできない」と考えるのではなく、「この人数だからこそ何ができるのか」を考えることが重要であると感じた。

今回のフォーラムで学んだ「小さな行動からでも変化を起こすことができる」という考え方を、自身の活動においても大切にしたい。大きな事業を行うことだけを目標とするのではなく、身近な地域や人々に目を向け、少人数でも実践できる奉仕活動を探し、実際の行動につなげていきたい。また、こうした考え方を自分だけが持つのではなく、所属するスカウトたちと共有し、自ら考え、自ら一歩を踏み出せるような活動づくりにつなげていきたい。